

《俳句クラブ》



兼題：新春の季語、寒椿、厄払、蜜柑

書初や健の一字に力込め	上羽 貞弘
初釜の湯の音かすか四畳半	上羽 貞弘
年毎の節々劣化寒の入	深見 彰生
新設の道の駅よりみかん便	深見 彰生
虎落笛最終電車着く時刻	高田 勝
絵手紙の友より届く寒椿	高田 勝
元日の小さき交番日章旗	日種 晁
「寒」の字の由来紐解く寒の入	日種 晁
浜名湖の入江入江の初景色	梶谷 ゆり子
尼僧剪る寒の椿をただ一枝	梶谷 ゆり子
初御空天使の梯子街覆う	高本 陽子
紅一輪咲くや日向の寒椿	高本 陽子
寒の入首を竦める雨戸開け	大高 松男

《川柳くらぶ》

十二月 句会 研究句 「痛い」

別れ話切り出す方が辛いもの  
夢うつつほっぺたつねり目を覚ます  
中井芳樹



痛風が気にはするけど忘年会  
胃が痛む二日続いた年忘れ  
原 三郎

痛くなる葉はないか懲らしめに  
稲垣のぶ久

痛いところ突かれて犬に八つ当たり  
水船 修

青春の古傷繋ぐ良き友よ  
水谷 毅

一月 句会 研究句「鍋」

おせち空け関東煮に鍋躍如  
水谷 毅

孫帰省こんやはごちそうカニ鍋だ  
渋谷訓生

ぶつぶつと不満ぶち撒き鍋煮える  
水船 修

懐を見透かされてる今日の鍋  
中井芳樹

鍋奉行居てもたつても居れぬ箸  
原 三郎

冷え切ったなかを取り持つぼたん鍋  
千足 千



《応募作品 川柳》

カレッジはタイムスリップスポットよ  
よくぞ言うしあわせの村友を得ん  
黄昏て移ろい早き学びの路  
野田 悦治（生環26期）

「ま」行  
待たされて医者がみるのは数値だけ  
見栄張ってゴルフ頑張りや腰痛め  
「昔はね」また始まった武勇伝  
目覚ましが鳴る前いつも目が覚める  
物忘れ通り越したら認知症

「や」行  
夜尿症睡眠不足で昼寝する  
「言ったでしょ」妻に言われても記憶なし  
夕飯を食べた記憶がまるでなし  
えらい人肩書き外れりゃ只のひと  
「余談だが」話しに割り込む癖が出る  
知地 正紘（国際25期）

俳句・川柳 募集中！

投稿はこちらから

